

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立三宅小学校

栄養教諭 橋本智美

1. 題材名 三宅小の給食とSDGsのつながりを探そう！

2. 本時目標

- 学校給食での取り組みはSDGsの目標とつながっていることが分かる。(知識・技能)
- ともトークで自分の考えを伝え合うことを通して、考えをまとめることができる。(思考・判断・表現)
- 学校給食とSDGsの目標とのつながりを意欲的に考えることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 題材について

(1) 題材観

5年生の総合的な学習では、給食に登場する「ギョロッケ」を題材として活用し、給食でのSDGsの取り組みについて学んだ。その後、給食で実際に「ギョロッケ」を味わうことを経験している。

本年度の総合的な学習では、『SDGsを学ぼう』で動画教材「サスチェン」の視聴を通して、SDGsの17の目標について学びを進めている。しかし、児童にとってSDGsの目標は、世界の大きな課題を解決するためのものであり、身近なこととしてはとられていないのが現状である。

そこで、日々食べている学校給食とSDGsのつながりを考えさせることにより、自分自身の生活が実はSDGsの目標達成に関係していることに気づかせたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、毎日の給食をととても楽しみにしており、給食をほとんど残すことなくよく食べており、献立内容への関心がとても高い。そこで、この題材に取り組むことは、児童の興味関心が高いことを切り口として持続可能な社会をつくるためにできることを、自分ごととして考える機会として有意義であると考え。また、委員会活動として行っていることの中にも、SDGsの目標達成に結びつく活動があることに気づくことで、より身近なこととして感じるができるようになることを考える。

(3) 指導観

本題材の指導にあたっては、まず悪魔の果実(アボカド)のバーチャルウオーターについて考えさせ、動画教材「サスチェン」での学びを振り返り、本時の学習に導く。次に、今月の給食配膳表を活用し、SDGsの目標につながる料理や献立を見つけさせる。児童が発見したつながりをもとに、さらに給食での取り組みを探っていく。その過程で、昨年学び味わった「ギョロッケ」のその後を知らせることにより、自分たちの学びが地域の人々にも影響をあたえることにも気づかせたい。その上で、委員会活動として行っていることの中にも、SDGsの目標達成に結びつく活動があることに気づかせることで、今自分にもできることがあるのではないかと考えさせたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

有限性…豊かな食資源に恵まれていることは、当たり前ではないこと。

相互性…地元福岡の農水産物やその加工品を、積極的に給食の献立に取り入れ「消費の機会」を生み出すことは、その仕事に従事する人々の生活を支えることになるということ。地元の子ども達に食べてもらえることは関係者の喜びであり、働く原動力の一つにもなっていること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

・長期的思考力

豊かな食資源を守り、次世代に受け継ぐために、30年、50年、100年先のことを考えて今、行動することが大切である。

・コミュニケーションを行う力

他の児童の話を考えながら聞いたり、自分の考えを伝えたりしながら、自分の考えをまとめられる。

・進んで参加する態度

意欲的に関わりを持とうとしたり、考えをつくろうとしたりして、積極的に参加しようとする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

・世代内の公正

50年後も豊かな食資源を保つためには、今自分たちが何を選んで食べるかが大切である。

・幸福感に敏感になる、幸福感を大切にする

地元の産物や加工品を食べられることは、幸せなことだということを実感する。

・達成が期待されるSDGs

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

4 質の高い教育をみんなに

4. 評価規準

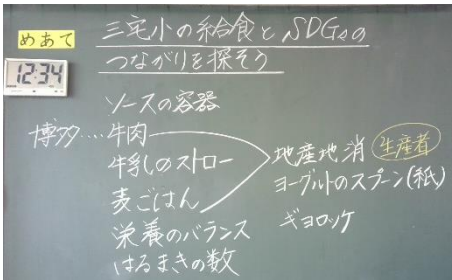
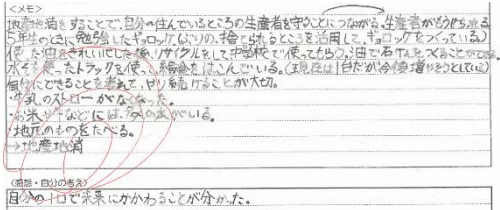
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 豊かな食資源があることは、当たり前ではないことに気づいている。	① 自分の考えをつくっている。	① 給食とSDGsの目標とのつながりを意欲的に考えようとしている。
② 地産地消は地元の食資源を護り、環境問題の解決にもつながることが分かっている。	② ともトークで自分の考えを伝え合うことを通して、考えをまとめている。	② 何か自分にできることはないか考えようとしている。

5. 事前・事後指導

	主な学習活動（給食時間）	学習への支援（給食時間）	評価・備考
事前	① 給食に使われている地産地消の食材を知り、味わう。 	○「今日の地産地消クイズ」を全校放送する。 ○産地表示されている箱や下処理で廃棄する野菜の部位（実物）を見せる。 	○地元の食材を知り味わうことができたか。
事後	① 給食に使われている地産地消の食材を確かめ、味わう。	○給食時間に学級にて実際の給食と授業資料を活用して、学習内容の振り返りを行う。	○学習内容を確認められたか。

6. 本時の展開

展開	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
導入	1 前時までの学習を振り返る。 ・農作物を育てるためには、たくさんの水が必要なのだな。 ・動画でバーチャルウォーターのことを学んだな。	○1個のアボカドは、収穫までに400L（お風呂2杯分）の水（バーチャルウォーター）が必要なため、悪魔の果実と呼ばれていることを知らせ、動画での学習を振り返らせ、本時の学習に導く。	ア①（知・技）
展開	2 本時の学習のめあてをつかむ。 めあて 三宅小の給食とSDGsのつながりを探そう 3 SDGsの17のゴールにつながる料理や献立は何かを考え選ぶ。（個人）	○今月の給食配膳表を活用し、SDGsの目標につながる料理や献立を見つけさせる。	イ①（思判表） ウ①（主体的）
	4 考えを発表する。 ・牛乳のストローレス	○選んだ理由とともに考えを発表させる。	

	・米粉パン 5 ともトークで、他の児童の意見を聞き、考えを深める。 (グループワーク) 6 ともトークで見つけた考えを発表する。 ・地産地消 (CO2 削減) ・すべての献立 ・デザート紙スプーン 	○ともトークで、考えを深めさせる。 ○選んだ理由とともに考えを発表させる。 ○児童が発見したつながりをもとに、さらに給食での取り組みを探っていく。 ○昨年学び味わった「ギョロッケ」のその後を知らせ、自分たちの学びが地域の人々に影響を与えることにも気づかせる。 ○委員会活動として行っていることの中にも、SDGsの目標達成に結びつく活動があることに気づかせ、自分にもできることがあるのではないかと考えさせる。	イ② (思判表) ウ① (主体的) ウ② (主体的)
まとめ	6 本時の学習で学べたことや感想、自分の考えを学習プリントに書く。 	○学習プリントに学べたこと、感じたことを書かせる。	ウ② (主体的)

7. 成果と課題

【成果】①学校給食とSDGsのつながりを考えさせることにより、自分自身の生活がSDGsの目標達成に関係していることに気づかせることができた。また、SDGsの目標をより身近なものとしてとらえられる児童が増えた。自分ごととして何かできることを考えさせる機会とすることができた。

《児童の感想 (学習プリントより) 》

*自分の一口で未来に関わることが分かった。

*私たちにもできることはたくさんあることが分かりました！この分かったことをもとに動いていきたいです。私になってる飼育委員会はSDGsに関係していると分かってうれしかったです。

②目の前にある「今自分が食べている給食」に使われている「地元の食材」に焦点を当てるクイズの放送や、産地表示されている箱や下処理で廃棄する野菜の部位 (実物) を見せること等を、日々の給食時間に継続的に行うことで、食材の産地への関心を高めることができています。産地紹介をしていない時も、給食中の学級巡回時に、児童から「これはどこでつくられたの？」と声をかけられることが増えてきた。「地元の農家や加工業者の方と給食のつながり」を「見える化する」意図で指導を続けたことで、自分が食べているものがどこで生産されているかを意識する児童を増やすことが

できたと感じている。

- ③福岡市の年間献立計画で意図的に取り入れている地元の食材を、教材として活用する実践ができた。
- ④福岡市が給食に関連する事業として推進してきた、SDGsの目標達成に向けての取り組みを児童に周知する機会にもなった。
- ⑤前年度の総合的な学習で、給食に登場する「ギョロッケ」を題材として活用し、給食でのSDGsの取り組みをについて学び、給食で実際に「ギョロッケ」を味わった経験や、関わってくれた人々に届けたメッセージなどを本時の学びにつなげることができた。

- 【課題】**
- ①児童にとって身近な給食を題材として切り口として、地元の公共事業でもSDGsに向かう努力が行われていることを、福岡市の市民の一人として探究することを通して、自分にできることを考えさせる実践に高められるよう、ゲストティーチャーを招いての学びの機会を持てるようにしたい。
 - ②次年度の校内カリキュラム検討の際に、今年度の実践を踏まえゲストティーチャーとの学びの時間を設定するよう提案したい。
 - ③5学年での学習とつなげ、6学年でさらに学びを深められるよう、次年度の5学年の総合的な学習のカリキュラムに、社会科の学習と関連づけた「水産加工業者のSDGsへの取り組み」にふれる学習の機会を設定するよう提案したい。
 - ④持続可能な取り組みとして実践できるよう、指導資料等の詳細資料を整理し引き継ぐ仕組みづくりを構築したい。

小学 6 年

現在の学年終了時に目指す姿

自分たちの住む地域に誇りと愛着をもち、一人一人が将来の環境づくりの主体であることに気付くとともに、自分ごととしてよりよい社会に向けてのアクションを考え行動することができる。



豊かな農水産資源に恵まれているところで生活しているなんて幸せなことなんだなあ。

どうすれば今後も豊かな農水産資源を保てるか真剣に考えていきたい。

6 年生総合的な学習「三宅小の給食と SDG s のつながりを探そう！」

日々食べている学校給食と SDG s のつながりを考えさせることにより、自分自身の生活が実は SDG s の目標達成に関係していることに気づかせ、持続可能な社会をつくるためにできることはないかを、自分ごととして考えさせたい。また、自分たちの住む地域は、豊かな農水産資源に恵まれていて、その豊かな資源を護るために多くの人が協力し取組んでいることを知らせ、地元への愛着や誇りをもたせたい。

地元の農水産物やその加工品を選んで食べることで地元の農水産業や加工業を支えられるんだな。

私たちの委員会活動も SDG s の目標達成につながっているんだ！！

「地元の豊かな食資源を護るために、今自分にできることを考えよう」

○主に養いたい ESD の資質・能力
長期的思考力

豊かな食資源を守り、次世代に受け継ぐために、30 年、50 年、100 年先のことを考えて今、行動することが大切である。

コミュニケーションを行う力

ともトークを通して考えを深め、自分の考えをまとめ発信する。

○主に育てたい ESD の価値観
世代間の公正

50 年後も豊かな食資源を保つためには、今から自分たちが行動を起こすことが大切である。

水産業にはたくさん課題があるな。水産資源を守るためにアクションを起こさないと。

5 年生社会科「水産業」

このままでは、40 年後には、魚がいなくなるなど豊かな水産資源は枯渇してしまう持続不可能な状況にあることを理解する。

給食時間「地産地消」（福岡産の農水産物やその加工品を活用した給食）

地元福岡の農水産物やその加工品を、積極的に給食の献立に取り入れることで「消費の機会」を生み出し、その仕事に従事する人々の生活を支えている。地元子ども達に食べてもらえることは関係者の喜びであり、働く原動力の一つにもなっている。また、児童一人一人が地域の住民であり、「地元の農水産業を護る」主体であることにも気づかせたい。

- ①福岡のギョロッケ（市内産ぶり使用）
- ②福岡のぶりフライ（市内産ぶり使用）
- ③市内産の野菜（トマト・キャベツ・ねぎ・春菊・人参・小松菜など）
- ④能古島の甘夏ゼリー等の加工品